

一般質問

市政を問う！

◎一般質問とは、議員が市政全般について市長など執行機関の考えをただし、報告や説明を求めることです。
◎ここに掲載したのは要約で、会議録に基づき議員本人が編集したものです。
◎詳細は会議録（今回の会議録は、12月頃からホームページ、図書館、各コミセンにて公開）またはインターネット議会中継をご参照ください。

氏名	質問の要旨
宮崎 稔子	1 子育てナンバーワンの大川をめざして 2 骨髄移植ドナー助成金について
西田 学	1 「大川の駅」整備と住民投票条例の 制定について 2 いちよう通りの延伸について
永島 幸夫	1 「大川の駅」全体計画について(第2弾)
宮崎 貴仁	1 子育て支援を活かした未来をつなぐ まちづくりと人口減対策
川野栄美子	1 子育て支援総合施設（モッカランド） について（男女共同参画社会の視点） 2 文化行政の推進について （清力美術館・アート活用に力を！）
永島 守	1 国県補助事業の状況及び経過について
内藤 栄治	1 大川市文化財保護条例について 2 大川市の環境対策について
馬淵 清博	1 大川市都市計画の見直しと用途地域の 変更は
遠藤 博昭	1 学校教育について

心安な有機農業の取組を行うことと、作物の価格が上がっている話もあるため、効率化は必要なことだと思いますが、完全に相反するのは、生産者の考え方だと思うので、現状、本市では効率化を優先せざるを得ません。

意見 効率化を優先させることも大切だが、環境を大事にして農業に従事されている方の声にも耳を傾けて、環境にも配慮しながら大川市の農業について考えていきたい。

問 木のきもちブランド育成事業補助金で開発された商品の反響は。

答 コロナ禍でまだお披露目できていない状況であり、今後イベントが開催できる段階で披露され、また、展示会等においても木のきもちの商品が出品されていくと思っています。

意見 木のきもちは、今後、大川が推し進めていかなければならず、イメージ戦略として生かすことが今後のシティーセールスにも大きく影響するので、木のきもちを絶やさないように、大川は木を大事にするまちだと、若い経営者にも広げていただきたい。



問 地域公園整備事業補助金の事業内容と内訳は。

答 補助金は地域の広場、公園を整備される際に交付するものであり、小坂井町のトイレの新設に212万6千円、兼木町の公園造成や遊具、ベンチの設置に195万円、鬼古賀町の運動広場に滑り台1基が設置され、29万7千円の交付を行いました。

問 大雨などの災害時に市民の不安を和らげるため、市民からの個別の要望に応じた土のうの配付は。

答 土のうは水防倉庫や消防署に配備しており、基本的に市民に対し個別に配付することは考えていませんが、令和3年度は、土のうを希望する地域の防災組織や町内会には配付を行い、それぞれの地域において、必要に応じて必要な場所ですべていただくものと思っています。

問 スクールカウンセラー等活用事業に関し、前年に比べると相談件数が増えているが、何かあったとき、すぐに駆けつけていただく相談員の体制は。

答 まず、学校の相談担当の教職員が対応し、その後、案件に応じて、スクールカウンセラーに相談を受けていただいています。

問 児童・生徒の相談内容は複雑でそれぞれ違うため、対応するのはとても大変だと思うが、スクールソーシャルワーカーの人数やスクールカウンセラーの配置時間について、今後検討する考えは。

答 現在、人材確保に苦慮している状況です。

意見 子どものことで悩まれている保護者は多いので、ぜひ人材を見つけていただき、しっかりとした子育てしやすいまちづくりをお願いしたい。

問 地方交付税の中の特別交付税はどのようなものか。

答 特別交付税は、普通交付税とは別枠で各市町村の諸事情等に関する経費について、国が算定し市町村に交付されるものであり、できるだけ多く交付額をいただくような取組を行っています。

総括意見・要望

○県議会議長に地元選出議員がなられており、花宗川及び新橋川の強制排水ポンプの設置ができれば水害に対し強いまちになれる。市長にも、協力者のネットワークを築けるよう頑張っていたいただきたい。

○市長が掲げた子育て支援、「大川の駅」構想等については、長年にわたり精査し、視察や広く皆さんの意見も伺い、現在に至っている。前向きに、建設的な意見を交わし、掲げた事業を大川市民が一つになり取り組むことで、いい結果を出せることになると思う。

○市内木工製造業では原材料が入荷困難な状況にある。全国的にも似たような状況で、世界中がコロナ禍の影響で悪循環に陥っている。この厳しい状況は数年続くと思われるが、市は限られた財政の中、世の中の情勢を見極めながら、行政運営を行っていたきたい。



子育てナンバーワンの大川をめざして
骨髄移植ドナー助成金について
宮崎 稔子 議員

問 子育て支援総合施設「モッカランド」で行われる事業内容は。

答 子育て支援センターアップランド、保健センター、子ども未来課が別々の場所で行っていた子育て支援事業をこの施設に集約します。それに加え、さらなる充実を図るため、子育て世代包括支援センターの機能として、妊娠・出産・子育てに関する相談に応じ、切れ目のない支援を行い、子ども家庭総合支援拠点として、児童虐待や特定妊婦への支援を図ります。また、児童の発達支援では、発達教室を実施し、集団遊びや学習会、個別相談を通して、保護者の育児不安の軽減等を図り、現在、川口小学校で行っていることばの教室もこの施設で実施し、教育的に改善を図るとともに、より豊かな人間関係を育み、充実した家庭や社会生活を送れるよう支援します。

問 市内の骨髄バンクへのドナー登録者数は。また、県の骨髄移植ドナー助成事業の内容及び本市の取組について伺いたい。

答 本年3月31日現在のドナー登録者数は116名です。福岡県骨髄等移植ドナー助成事業は、骨髄等の提供のために要した通院や入院の日数に応じて、1日当たり2万円、上限を7日間として助成するもので、県から経費の2分の1が市町村に補助されます。現在、本市では助成を行っていませんので、今後、助成制度の導入について検討したいと考えています。